

韓国岳：山頂

標高 1,700m の韓国岳山頂は、霧島錦江湾国立公園内の最高地点であり、公園内の多様な地形を一望するのに最適な場所です。

はるか西には栗野岳がそびえています。この国立公園で最も古い山のひとつである栗野岳は、約 20 万年前に形成されました。南には標高 1,200m 以上に位置する広大な火口湖、大浪池があります。約 5 万年前に形成された大浪池は、栗野岳よりかはるかに新しいものの、それでも韓国岳より三倍も長く存在しています。晴れた日には、さらにはるか南に鹿児島湾の桜島が見えます。

南東の新燃岳には、今でも 2017 年の噴火の際に噴出し冷え固まった溶岩を火口内の溶岩溜まりと山腹に残る黒い筋に見ることができます。新燃岳の向こうには、アマテラスオオミカミの孫であるニギノミコトという神が地上に降り立った場所と伝えられる高千穂峰があります。東にそびえているのは山容が美しいことで知られる夷守岳です。

火口内部

ミヤマキリシマ (*Rhododendron kiusianum*) などの強い植物しか育たない岩場である韓国岳の火口壁の上から見ると、火口内部に広がる幅 900m、深さ 300m の緑豊かな盆地はまるで隠れた別世界です。時々、大雨の後に火口底部に小さな池ができ、そこにシカが水を飲みにやってくることさえあります。

韓国岳が 1 万 7 千年前に形成されてから数千年後に起こった噴火により、この盆地の北西側はえぐれています。この爆裂火口は元々の火口に特徴的な馬蹄形をつくりだし、そのため、韓国岳はどの角度から見ても違った形に見えます。